

マーケットの動き（2023年7月17日～7月21日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。週前半はECB（欧州中央銀行）高官が9月以降に利上げを停止する可能性を示唆したことや、6月英国CPI（消費者物価指数）の伸び率鈍化などが米国債券の金利低下要因となった一方、週後半は週間の米国新規失業保険申請件数が減少し労働市場の底堅さを示したことなどが金利上昇要因となりました。

欧州国債市場は、6月英国CPIを受け英国金利は低下しました（債券価格は上昇）。

投資環境見通し（2023年7月）

長期金利は、米国では小幅に上昇、欧州（ドイツ）では上昇圧力がかなりやすい

米国：長期金利は、労働需給のひっ迫やインフレ率の高止まりを受けて、6月のFOMC（米国連邦公開市場委員会）では年内あと2回の利上げ見通しが示されたことが上昇要因とみられますが、一方で年末に向けての景気後退懸念が低下要因とみられることから、小幅の上昇にとどまるとみえています。

欧州：ドイツ長期金利は、依然としてコアCPI（消費者物価指数）が高止まりしていることや賃金上昇圧力に対する警戒感を背景としたECB（欧州中央銀行）による追加利上げ観測から、上昇圧力がかなりやすい状況が続くとみえています。

	7月21日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	3.85	0.03	0.12	0.36	0.94
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	543.70	2.00%	0.37%	9.14%	2.16%

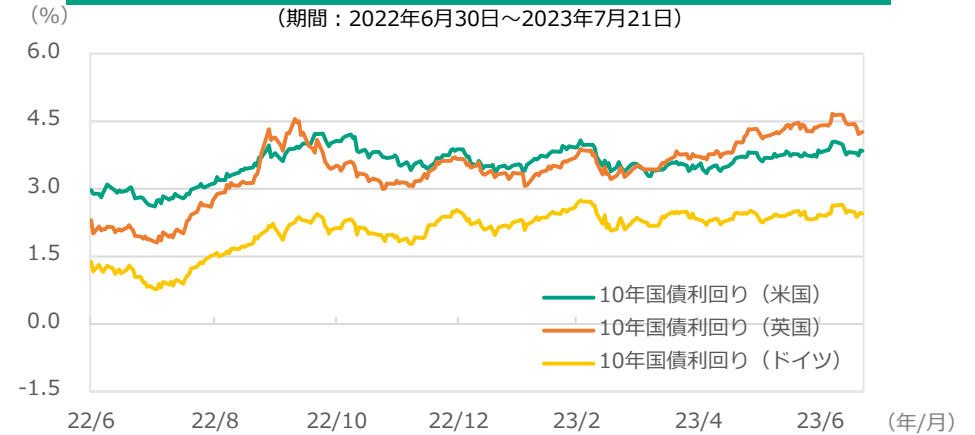
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202307_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2022年6月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成